

SARS-CoV-2 新型コロナウイルス

— 英国における新たなSARS-CoV-2変異体 —

- ▶ A SARS-CoV-2 variant, referred to as SARS-CoV-2 VUI 202012/01, has been identified through viral genomic sequencing in the United Kingdom. It is defined by multiple spike protein mutations (deletion 69-70, deletion 144, N501Y, A570D, D614G, P681H, T716I, S982A, D1118H) present.
- ▶ Timely efforts to prevent and control its spread are needed.

英国における SARS-CoV-2 の新たなバリエーションに関する「脅威評価の概要」をご紹介します。

▶英国で観察された複数のスパイクタンパク質変異を伴う SARS-CoV-2 変異体の急速な増加

European Centre for Disease Prevention and Control. Rapid increase of a SARS-CoV-2 variant with multiple spike protein mutations observed in the United Kingdom – 20 December 2020. ECDC: Stockholm; 2020.

英国南東部において COVID-19 症例の急速な増加が確認されており、その大部分が、新しい系統に属したバリエーションであることが確認されたと報告しています。この新たなバリエーションは、スパイクタンパク質変異（欠失 69-70、欠失 144、N501Y、A570D、D614G、P681H、T716I、S982A、D1118H）であると述べられています。英国での分析によると、従来の変異体よりもはるかに感染性が高い可能性があるとしていますが、執筆時点（2020年12月19日時点）では重症度が増加している兆候はなく、新しいウイルス変異体が英国外に拡散していることを示す証拠も得られていないとしています。現状においては、拡散を防止・制御するための取り組みが必要であると、筆者は強調しています。

この「脅威評価の概要」の目的は、①新しい変異体に関する現状報告 ②公衆衛生への影響を評価すること ③対応例を提供すること ④更なる調査の必要性を説くことであると主張しています。拡散の可能性、SARS-CoV-2 診断への影響、重症度、変異体の再感染の可能性、ワクチンの適合性と有効性への影響などを考慮し、今後とるべき行動が提示されています。

またラボにおいては、「S 遺伝子以外をターゲットとした RT-PCR 陽性かつ S 遺伝子をターゲットとした RT-PCR 陰性」となるケースをピックアップしてスパイクタンパク質変異の可能性のある分離株をまず特定し、次にシーケンスによって問題となる新しい変異体であるかどうかを確認することを推奨しています。